NO. 11

10月

# 昭和小だより



発行責任者 小川茂樹 発行日 平成30年 10月5日

# 校内マラソン大会を行いました

10月4日(木)薄日の差す絶好のコンディションの中、 伝統ある校内マラソン大会が行われました。

マラソンの練習は、雨が心配される中、9月下旬頃から本 格的に始まりました。大会まで短期間ということで、練習量 確保のために、1校時前の「業前の時間」も活用して「走力」 UP」を目指した活動に取り組んできました。

当日は、1,2年生は1000m、3,4年生は1500 m、5,6年生は2000mのコースを、まずは、マイペー スで完走することを大きな目標に掲げ、さらには、自分のべ ストタイム更新や歴代の卒業生が持つ「大会記録」の更新目 指して、精一杯走り切りました。

また、子どもたちの交通安全のために、駐在所の杣澤さん をはじめ、村役場交通安全担当の五十嵐さん、村交通教育専 門員の皆さんのご協力をいただきました。さらに、お忙しい 中、保護者、地域の皆さん、保育所の園児の皆さんと大勢の 声援の中をいただき、子どもたちの背中を押していただきま した。本当にありがとうございました。

小中連携の一環として、中学校の小杉校長先生と体育担当 の佐瀬先生にもおいでいただき、子どもたちのがんばる姿を 見ていただくとともに、陸上の専門家でもある佐瀬先生から 講評もいただきました。

子どもたちの頑張りが保護者の皆さんや地域の皆さんの力

となっているかと思い ます。今後も様々な行 事が続きますので、た くさん足をお運びいた だき、子どもたちのが んばりを応援ください ますようどうぞよろし くお願いいたします。



#### 稲刈りに挑戦

10月4日(木)、本名勤様ご夫妻、 菅家チョさんを講師として、稲刈り を実施しました。雨や台風の影響も あり延び延びになっておりました が、秋空の下、全児童で取り組みまし た。上学年は手慣れた感じで、1,2 年生は慎重に稲刈り用の釜を使って 取り組みました。刈り取りが終わっ た稲穂は、すぐに脱穀しました。猛暑 の夏、水不足が深刻で収穫量も心配 されましたが、おかげさまで例年並 みの収穫となりました。

10月13日(土)には、お待ちか ねの「収穫祭」を予定しています。子 どもたちが取り組んだ「米作り」の成 果を十分に味わっていただければと



# 杉の子会の皆さんとの活動進めています

今月も杉の子会の皆様方においでいただき、1,2年生の 生活科の授業で、木の実や紅葉等を使いながら、思い思いに 芸術作品を制作する活動に取り組みました。

事前に、杉の子会の皆さんには、お忙しい中、クルミや 栗、ドングリ、色づいた木の実や葉っぱ等を採取していただ き、使わせていただきました。

子どもたちも秋の材料を使って楽しみながら真剣に制作に あたっていましたが、杉の子会の皆さん方も、子どもさん以 上に楽しく集中して制作に取り組まれておられました。

作品は、村文化祭でも掲示す る予定です。どうぞお楽しみに。 また、杉の子会の皆さんからは、 木の実や紅葉集めも楽しかった ので、来年は是非、栗拾いなど の活動を一緒にできないだろう かとのアイディアを寄せていた だきました。



# 今後の主な行事予定

< 1 0 月>

8日(月)体育の日

12日(金)収穫祭準備

13日(土)収穫祭 PTA雪囲い

15日(月)振替休日

16日(火)貯金、集金日

17日(水)歯科検診

23 日 (火) 花壇作業

24 日 (水) 小児生活習慣病予防講演会(午後) 植樹祭(5.6年)

29日(月)学習発表会リハーサル

31日(水)小中合同授業研究会 < 1 1 月 >

3日(土)学習発表会 文化の日 5日(月)振替休日、6日(火)代休日

#### 体育館の屋根、西昇降口玄関の屋根を補修しました

旧NTT側の体育館の屋根部のコンクリートが劣化して、 はがれ落ちていましたので、9月中旬から補修工事が始まり 補修が完了しました。

また、正面玄関のコンクリート部分に鍾乳石?ができていました。屋根のコンクリート部分に水がしみこみ、石灰分を含んだ水滴によるものです。先日、補修作業が始まり欠けた部分を補修し、防水シートを天井に敷くとともに、コンクリート部分を防水ペイントで覆いました。まだ少し水滴がでていますので、収まったら完成となります。

<AFTER>

<BEFORE>



防水シートを 敷きました。

#### 芸術鑑賞教室

10月3日(水)公民館で、芸術鑑賞教室ファミリーシアターが開催されました。今年は、劇団エンゼルの「はじめに見えたえもの」という作品でした。ミミの目を治す約はいったククの一生懸命な姿やたと思いたともたちの記憶に残ったと思います。最後に、全校生を代表して6年の五十嵐直人さんが、感想とおれの言葉をしっかりと述べました。

